

藏

俗文

選

序目

一



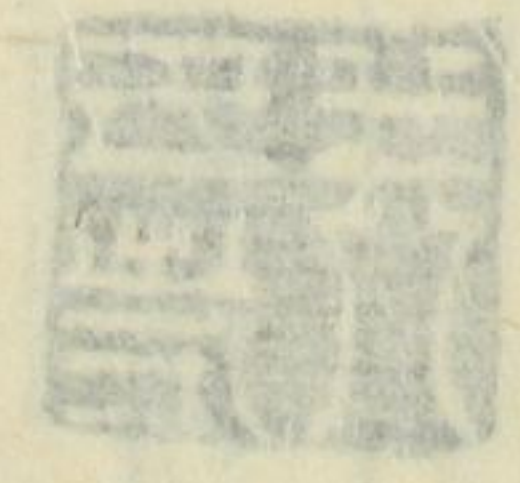
5  
1879  
1







正久年一書六卷



本  
森  
朝  
日  
滋

正久年一書六卷

正久年一書六卷





# 五老の許六選

五老井許六選



## 風俗文選序

月澤 律師 李由述



飛蝶乃羽友子。お老井の許六。滑稽骨  
 俳諧新古今又素を拾ひ集めく風  
 俗文選と題をむし。やまと新文選集を  
 て。この書を

本朝の人は述作して。文乃作。かしく  
 本朝の人は述作して。文乃作。かしく



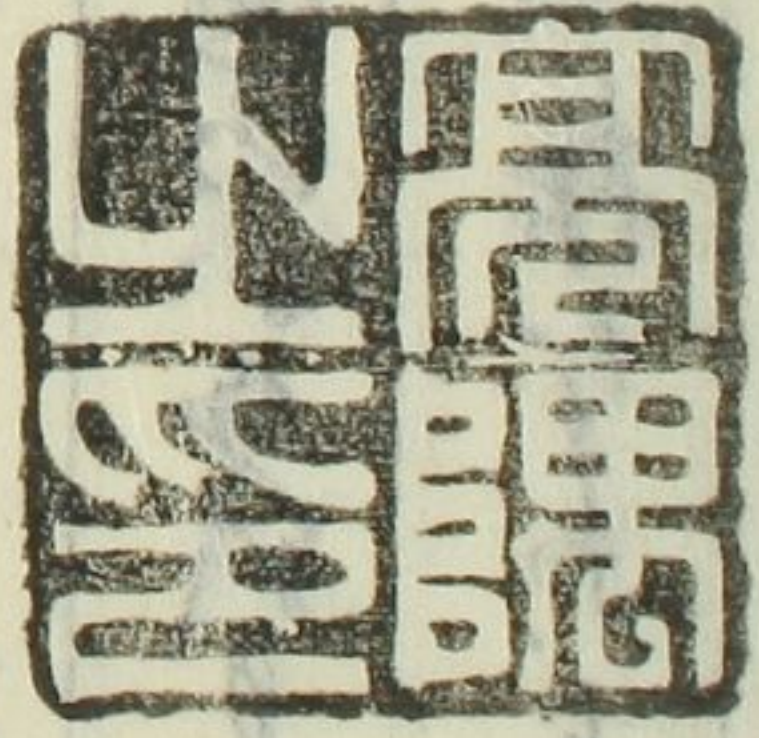
漢文なる一。今神ある文選ハ和書ノ  
 又孝より其伸をのびく。漢文ハ  
 一。むしりし。やま。河。お。と。ま。さ。き。  
 双紙物徳のそくいのこし。

本朝ハ文章ト稱さる。今此風  
 俗ハ選ののびなり。史漢文ハ文字  
 敷を定ぬ。顔をふて。格より。ま。さ。き。  
 一。され。一。文。孝。と。り。文。選。と。古。文。

と。記。す。る。記。を。記。お。遠。あ。れ。漢。文。と。て  
 も。怪。な。く。む。と。え。く。わ。か。し。て。和。文。ハ。文。字  
 の。敷。さ。し。よ。し。顔。字。と。も。な。し。ま。さ。き。  
 志。事。ハ。荒。賦。ハ。お。ま。お。通。の。か。ま。り。と。約。と  
 是。和。文。ハ。顔。を。ま。さ。き。一。格。な。り。お。ま。さ。き  
 顔。を。用。さ。る。も。よ。し。其。子。お。ま。さ。き。自  
 由。な。る。一。何。ほ。神。を。よ。し。の。り。ら。と。記。の  
 記。よ。し。く。な。り。神。を。ま。さ。き。お。ま。さ。き。



始とす。一。江東僧律師李由字買年  
於四梅庵序



風俗文選序

洛柿舎 去來

世亦俳諧の文あり。之を集し。よと。然い。の。先  
師。一。い。心。い。立。の。心。よ。か。る。ふ。物。希。か。神。を  
む。り。ま。や。と。ある。も。十。と。世。余。あ。り。せ。か。る。ん。今。や。門。家  
お。も。神。れ。凡。雅。小。技。小。う。る。し。ま。い。小。管。埙。と。響。を。横。へ  
又。揚。子。辭。を。少。く。ふ。と。お。す。く。あ。う。も。今。け。又。集。し。奇  
と。入。く。始。し。紫。門。辭。あり。終。し。頌。讚。の。凡。流。を。盡。も。  
或。ら。書。あり。或。ら。編。あり。て。説。賦。の。よ。く。と。成。述。又。謀。就







すぐらう変化とされづる人となりしを—  
 係氏お清也。げと先緒ありておまわしとく—  
 人のんくあきよさなまをき—  
 げ。横い女も。新よにのそぐ—  
 とわ。おちうはのまよひをし。清が幼な。松双成を  
 君のま—おきび。能の—おきび—  
 あらまの—  
 海とおまの—  
 お清乃。おまの—  
 さ—  
 見て、えあ—  
 記と紀とのち—

記と紀とのち—  
 おまの—  
 記よあきづる人—  
 ともおの—  
 人の作よ—  
 新あは乃まはく—  
 ときあは—



世のあつた。世情乃境目よあそぶ合点のこころし。  
 けふのちかた家神の終宴花もあそむら。虫味乃  
 帯一白葉もおのゆるし。うらやまはあそひ。いづの  
 こころはあそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 月よあそひ。地をこゆる。花よあそひ。あそひ。  
 こころはあそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 おもひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 して。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 甲斐のり。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 して。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 虫をこゆる。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 自れつづ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 つ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 井。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 家。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 少。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。  
 少。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。あそひ。

寶永九年甲申臘月日





風俗文選

自序

五老并許六選

文ら貫道の器也孔子も筆力あり  
 出れを学べしとあり吾邦往首のび  
 あり大和詞代文筆庫より車  
 みてびらまこと世ふおこるる  
 おほらら女名乃筆よして源氏按



長乃半しんし。男女共中試はく。實六  
奇よりしんへき道にまたねへ。共り  
歌連奇の文法めして誦循文章早  
格式一言もたし。先師芭蕉翁始て  
一格試をそとく。気韻生動をあらはせ  
たとひ鄙言漢字をまじへるも  
心々吾野そとく。田の花み葉をさくや  
み。和奇の浦志試をして。難波津に細き  
よ。あしまたるし。縦横自在を  
画し。まじりし。ひり。趣を平列する  
なく。六帝皇家の丸に抱はく。さあ  
果の松坂を仕舞し。まじり。甚世下事  
まじり。今もあつ。文章。蘇々二十。  
文ハ一百十有余篇。皆く俳諧文章なり。







真院。居干越中井波瑞泉寺。一日遊洛會。芭蕉翁效風雅。後著有磯海前後集。病薨。年三十二。

僧文艸者。尾州犬山產也。其年辭武出家。隱松本山上。蕉門之騷客也。能詩。後三年閉。閑而終不出。病死。常讀法華經。年四十四。僧千那者。江州堅田產也。居干本福寺。釋名妙式上人。掌任律師。號蒲菊坊。中華蕉門之高弟也。

僧李由字。買年。近州之產也。居干光明遍照寺。釋名亮隅上人。掌任律師。入蕉門而學風雅。年久。故著韻塞篇。突字陀法師。書病死。年四十五。

支考字盤子。號東花西花。亦號獅子庵。濃列之產也。入蕉門業風雅。一方門人也。先師滅。後遊東西南北。說風雅而助諸生。故往徃慕支考風者多矣。中遇居于勢列山田。後歸故國。作誹書數篇。辨俳諧之論。

晋其角者。武列江戶產也。生醫家。不學醫術。終業俳諧。寶井氏號狂而堂。蕉門之一人。而後起已。一風著誹書數篇。

嵐雪者。服部氏不知何許人。業風雅。遊武江。



戶蕉門之高弟也。後別妻出家。

野坡者越之前列人。生商家。居于武江戶。蕉門之學者也。一遊西海。不定其所居。隨師得炭俵之撰号。

北枝者加列金澤之人也。業磨工。見蕉翁好風雅。北方之逸士也。

涼亮者勢列山田神職之人也。業風雅。初號團友。

露川者伊賀之人也。生商家。居于尾名護屋也。好蕉門之風雅。

雲鈴者與列南部之人。產武。壯年入道。自號

摩詰菴婆且人。風雅師。東花坊。一渡依渡。

島著入日記。

吾仲者洛陽人也。居于六條。業佛畫。好風雅。

師李由。自號柳後園。著柿表紙三卷。

路通者不知何許者。不詳其姓名。一見蕉翁。

聽風雅。其性不實輕薄而長。違師命。飄泊

之中。著能諧之書。

凡兆者加列之產也。業醫。居于洛。學蕉門之

風雅。一罪事不知其終處。

素堂者山口氏也。居于武陽。避世務。隱于深

川。友芭蕉翁善。



嵐蘭者不知何許人松倉氏。武奉仕板倉家而奉諫速辭官。携母隱于武淺州。蕉門之老弟也。為月遊于鎌倉病死。

荊口者濃別大垣之武士也。宮崎氏蕉門故老之士也。此節千川文鳥三士之父也。後致仕改名東空。

去來者肥前之產也。後隨兄居于洛陽。向井氏也。中華蕉門之高弟也。號落物舍。隨師選猿蓑。後病死年五十三。

万子者加列金澤之武士也。生駒氏號此君菴。蕉門之英士也。

厚為者加列本聖寺之武士也。河地氏蕉門之英士也。病死。

木導者江別龜城之武士也。直江氏自號阿山人。蕉門之英才也。師翁稱奇異逸物。

汝村者江別龜城之武士也。松井氏字師薑。號九華亭。蕉門之達士也。嘗能書畫。繪師五老井。

毛統者江陽彦城之武士也。北山氏号大雅堂。好風雅。愛畫圖。師五老井。

程巳者近列龜城之武士也。朝倉氏号白目堂。愛蕉門之風雅。



朱迪者江陽安城之武士也守島氏号其露臺年久好風雅而入蕉門病死年四十三撰者許六者江列龜城之武士也名百仲字羽官森川氏號五老井別号菊阿佛一見蕉翁得正風躰實血脉道統之門人也常友李由撰俳書數篇

以上二十八人

風俗文選目錄

五老井許六選

○卷之一

辭類

柴門辭

芭蕉翁

歌辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文押

燒蚊辭

尚蘭

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

○卷之二

賦類



南都賦

汝村

鎌倉賦

許六

吉野賦

文柳

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐籬

湖水賦

季由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

○卷之三

賦類

附譜

鼠賦

去來

旅賦

許六

揚揮豆賦

毛純

四竊廬賦

季由

閑居賦

汝村

招魂賦

支考

譜類

百鳥譜

支考

百花譜

許六

山水譜

許六

○卷之四

說類

篋虫說

素堂

柴賣說

九指

閉關說

芭蕉

師說

許六

名阿段說

許六

出女說

木尊

雜說

不知作者

愛鴉說

万子



竹字籐說

程已

草川說

露川

山芋說

吾仲

朝霞感說

毛統

解類

獲麟解

許六

長雪隱解

許六

藪醫者解

汶村

○卷之五

記類

落柿舍記

去來

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風水二臺記

許六

紀行類

鹿島紀行

芭蕉

南行紀

李由  
許六

序類

曠野序

芭蕉

猿蓑序

其角

宴柳後園序

支考

要文集序

許六

近江八景序

千那

画樓繪合序  
許六

四絕文章序

李由

麻生後序

許六



銀河序

芭蕉

番椒序

野坡

○卷之六

箴類

飲食色欲箴

許六

聽箴

許六

銘類

杙銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鉢銘

吾仲

左右銘

芭蕉

是非齋銘

許六

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

丈艸誄

去來

去來誄

許六

○卷之七

歌類

挽歌

支考

鄙歌

五首

文類

俳諧發願文

浪花

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猫文

支考



吊古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○卷之八

傳類

公平傳

汶村

東嶺傳

芭蕉

牧童傳

支考

五郎四郎傳 支考

靈虫傳

去來

和氣傳 李由

直指傳

許六

碑類

壺碑

芭蕉

笠塚碑

李由

○卷之九

辯類

詩歌誹諧辯

丈州

定先後辯

支考

豆腐辯

許六

天狗辯

木尊

手足辯

汶村

人參辯

許六

射御辯

許六

表類

雨乞表

許六

嘲佛骨表

其角



讀佛骨表

厚為

陳情表

支考

○卷之十

論類

旅論

許六

仁不仁論

北枝

蕎麥論

許六

頌類

誹諧頌

李由

蕎麥切頌

雲鈴

酒德頌

朱迪

石臼頌

芭蕉

讚贊類

西行上人像讚

芭蕉

神農讚

涼兔

義少年畫讚

許六

團扇贊

荊口

入學贊

許六

紫芝四贊

許六

書類

院艷書

日蓮上人報書



人

日

書

人

書

人

書

西

書

西



柴門辭

芭蕉

瓢辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文州

燒蚊辭

嵐菊

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

風俗文選卷之一

五老井 許六選

辭類

柴門辭

送歸許六之故鄉  
饑別之文也

芭蕉翁

○去年秋林。けり秋の西とあるを。ふりみ月のうらめ深地  
別をたしむ。そと秋よみく。ひとらる廊とさうい  
て。終日軍候をけん。そと雲。繪をぬし。内旅をたしむ。そ  
とらんよとよみある。終を何乃あねじや。内旅のあ  
ぬじとつて。内旅を何のあせしとや。画のぬきとつて  
つて。そと中まふ。中二つて。用をたしむ。一たしむ。あそ  
と。あそらと多能をたしむ。とつて。用一たしむ。











乃のうらやまじ。腹懐いと肥やうして。口結せよ。何  
かや。せよ。くして。解乃入うらやま。ト。そののたけきやわし  
大突一して。弁て云。澹流乃水。すあうつけて。流る  
し。滑る。鞍と押せ。と。のりく。むて。まよ。おひ

示秋之信辞

又考

あし秋の信や。ふ葉おたぬ。世乃秋。又きり。ぬの信や。ぬ  
え神づり。やくさげ。よ。さ。び。又。なり。ぬ。あ。ら。ん。乃。ん  
あけく。彼ら。一。抱。も。な。ま。く。と。お。也。び。湖。南。の。紀。に  
な。よ。一。秋。の。名。と。む。す。び。其。夜。も。ま。く。む。と。ま。わ

や。い。ん。あ。み。や。す。ん。世。を。飛。速。の。こ。と。あ。こ。と。先  
の。も。甚。ま。て。お。く。わ。ら。す。中。さ。神。一。う。今。け。い。ま。屋。よ。回。ド  
ん。よ。い。ま。さ。ら。る。法。師。の。お。信。と。信。る。が。お。い。ぬ。日。お。後。日  
も。信。り。て。かく。信。ま。さ。う。あ。や。く。き。や。と。き。神。を。か。又  
あ。よ。ま。あ。り。て。あ。そ。ぐ。何。某。が。こ。ま。の。し。り。所。よ。み  
ま。や。あ。ら。ん。と。と。ろ。ん。し。も。こ。ら。ひ。ま。ら。な。わ。秋。の。信。が  
ふ。だ。ん。い。ま。ら。る。ま。な。ら。ん。の。同。さ。び。へ。く。ま。い。後。日  
く。り。の。り。ん。を。世。信。お。ち。て。心。乃。花。よ。う。け。ら。ひ。あ。し  
花。み。ま。い。又。世。の。風。流。なり。世。よ。い。ま。ら。す。ま。こ。か。ら。ん  
ら。う。は。後。日。ま。よ。お。き。て。い。ま。ら。る。み。な。神。そ。ら。ん。い。ま。ら  
あ。ら。ん。他。信。よ。ま。よ。い。ま。ら。る。ま。あ。ら。ん。ら。ん。と

大正十一年

五







此人かひく詩をよくも。多情有愁の画と新しんの巻まき云  
世々系所弄とあやつるといふも。新しん以い雅や子し之しをよふ  
ふとて。敷しき鴻こうの尾おとさぐら。つとせ先せん明めい。園えん新しん極ごく履りの比  
まらんとて。一いつ棒ぼうをさくまくととと。いふ心こころ深ふかはも  
むもと。今いま孝こう子しも子し考こうトて。又また後ごを磨をがむとす。此  
新しんなりし。唯ただなるおたわ。鏡かがみの袖そでの教ををうけい。かたし。  
池いけ元もと事こと。磨をぐとをさくも。速すみよ去いけとく。お瓶びんを乳  
飲のみ事こと。

別わかれも花はなのうらみも

あきらむらむ

贈たま新しん道みち心こころ辞ことば

文州

世よをながきてるをぬるほどの人ひと。皆みなつかじお志こころを發は  
して。まこと。あはれとあとも志こころあへ新しん也なり。年としとさうね  
ぬ新しん也なり。又またかきこ新しん也なり。いふく家いへおほく。子こ新しん也なり。か  
て。文ぶんとく。先せん乃なり人ひとしもおほく。ぬ。少すくなり。いぬ。か  
回かへく。於お古こ人ひともけり。をん。先せんて。お家いへら。お家いへ心こころ持もた  
ぬ。家いへを遊あそべさ。い。新しん也なり。ぬ。曾そと九こ子しとく。  
みの。心こころ持もた。乃なり心こころ里さともあ。と。い。て。い。さ。い。の。む。なる。新しん也なり  
乃なり。い。なる。縁ゆかりも。ゆ。ほ。なる。き。乃なり。後ごも。縁ゆかりも。い。く。ち。なる。お



























素子の綿より。黄金を前トする也。後。厚き。内。重  
の糸より。まきよき神。平。好。ま。ぬ。け。く。以。之。金。氣。世。の。ま。ま  
の。後。て。星。合。乃。空。も。う。ら。る。也。也。後。追。は。く。以。革。基。布。を。以  
ま。つ。る。丁。銀。糸。を。粗。く。う。と。づ。く。奥。方。お。世。の。巾。打。つ。て。ま。  
巡。れ。れ。何。わ。つ。し。金。乃。玉。乃。を。巡。れ。不。判。い。ふ。也。  
あ。く。じ。い。た。燒。糖。を。魂。奈。ま。の。忌。那。寺。お。小。佛。相。理  
と。し。よ。み。あ。る。と。く。お。後。を。酒。乃。也。や。ぞ。の。付。合。よ。一。粒。包。を  
て。お。後。を。ま。つ。い。く。け。い。と。ま。つ。と。あ。つ。け。り。わ。ま。つ。し。ま。あ  
ふ。養。又。入。る。と。て。誰。又。も。心。よ。い。か。ぬ。彼。佛。原。と。も。と。く  
亦。世。日。を。か。ま。わ。と。定。め。世。界。乃。金。糸。を。以。附。て。お。り。し。し  
と。う。何。や。る。べ。し。き。う。一。車。さ。乃。船。の。中。に。い。は。し。し。し。り

て。お。後。を。り。え。る。の。巾。を。て。い。は。し。し。し。り。お。後。を。り。え  
か。ん。と。の。お。後。を。い。く。ふ。と。也。こ。の。ま。は。あ。る。ま。日。氣。を。ま。つ。し。り  
お。後。を。り。え。る。と。て。一。と。大。神。と。し。し。し。り。思。布。千。粒。乃。を  
を。す。り。ん。あ。る。と。も。お。後。を。賣。家。持。を。ま。つ。り。て。台。以。金。氣。の  
道。ふ。人。つ。ま。は。お。後。を。離。離。也。い。く。と。也。り。松。嶋。象。河。の。能  
と。う。と。や。も。け。秋。志。あ。つ。と。は。姨。控。文。稱。乃。月。人。む。し。二。夜。氣。  
お。後。を。り。え。る。と。も。み。込。も。事。乃。直。板。を。離。り。て。尾。お。後。を。り  
と。う。と。い。は。し。し。り。か。け。路。の。下。お。後。を。り。一。夜。二。夜。ハ。い。く。と。秋。く  
と。も。還。あ。る。飽。ま。ぬ。と。も。さ。う。い。は。し。し。り。乃。神。の。命。あ。つ。と。と。ん  
と。う。と。あ。つ。秋。也。秋。も。い。く。と。も。さ。う。と。菊。花。名。も。さ。う。と。も。画。を  
何。と。振。東。離。と。い。は。し。し。り。か。神。も。命。氣。を。う。と。も。さ。う。と。も。い。は。し。し。り。









多岐のこはれ也上古より一まののりいふれ  
 もよるなりながく今やハけもれぬれなり  
 界より三日乃還るなりともどもあつれなり  
 一。

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)



